中長期計画「金沢市ものづくり戦略」を14年度末をめどに策定する予定。同様の助成制度は継続し、さらに産業発展につなげる。

事例

胃など消化器系がん 血液検査で早期発見

キュービクスが事業化

キュービクス（石川県野々市市、丹野博社長、076・201・8821）は、金沢大学との産学連携で胃がんや大腸がんなどの消化器系がんを早期発見する血液検査技術を開発した。血液から抽出したリボ核酸（RNA）を遺伝子チップにのせ、遺伝子が反応して発する光の量や強さなどの違いを健常者と患者とで比べて診断する。11年に検査を事業化、人間ドックのオプション検査として病院から受託している。

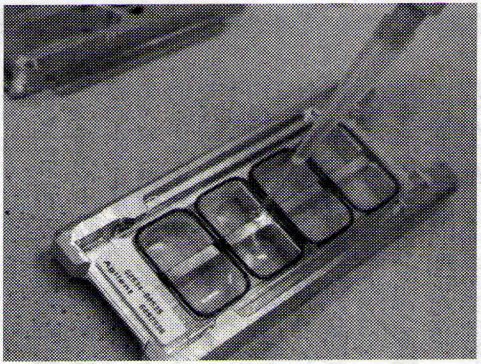
開発した検査手法は、従来の血中たんぱく質を調べる手法より早期に発見できる。大腸がん検査に用いられる内視鏡検査より、受診者の負担も軽減できる。

同社は会社設立の04年から、がん検査技術とは別の案件で金沢市の「萌芽的研究に対する助成制度」を活用するなど助成制度の情報は多く持っていた。がん検査技術の開発にも活用し、早期の事業化を図ることにした。

金沢市の助成制度に採用されたことで「金融機関からの融資を受けやすくなった」（丹野博社長）とメリットを説明する。ベンチャー企業の同社は開発資金が豊富とはいえず、資金確保のめどがついたことで研究開発を進められた。

今後は高価な遺伝子チップではなく遺伝子増幅技術を用いた検査手法を14年度末をめどに開発する計画。

検査作業の自動化装置も開発し、検査の低コスト化、時間短縮を進める。さらに消化器系以外のがん検査への適用を目指す。



▲……遺伝子チップなどを用いた消化器系がん検査キット

分かるセミナーを新設する。大学のどの窓口に、どの程度練り上げた開発プランを持ち込めばよいかなどを説明、大学とつながる機会を提供する」

―新たな中長期計画のコンセプトは。

「研究開発の助成は続ける。若手の声を反映させて時代のニーズに合わせ、かつ国や県の制度とは差別化したい」